



〈子どもたちは新年をどのような抱負でむかえたのでしょうか・・・♡〉

保護者の皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。



年の初めにしっかりとした抱負をたてると一年それに向かって人生は動いていきます。親子で新しい年について話ができた家庭、出来なかった家庭あると思います。子どもとの2人の時間を作り今からでも「今年の抱負」について話し合うのもいいですね。

さて本日は『親ガチャ』です。昨年の流行語大賞は『リアル2刀流/ショータイム』でした。大谷選手の活躍に大人も子どもたちも元気をもらったと思います。そして受賞語の1つに『親ガチャ』が入っていました。〈ガチャガチャ〉は少し前では子どものおもちゃでした。なかなかよいものには当たらず、何個も挑戦したがる子に『やめときなさい』と制止していたものです。最近は旅行など高額なものも出ていますが、どれを引いても損はしないようで、かえってわくわく感が受けているようです。

この『親ガチャ』は子どもたちからみて「親を選んで生まれてこれない」という意味で使うようです。人は『イノセント』の状態で生まれる。純粹で無垢という意味です。人は無垢な状態で生まれ、その養育者の影響を受けて育つ。自分の生まれる国、場所や時代や性別、容姿、経済力は選べません。ここに子どもたちが使う『親ガチャ』のように当たり外れがあるということなのでしょう。

しかし、どんな環境に生まれても大人になるためにはある戦いが必要となります。それは心理学で言われている【自我同一性の確立】といいます。それを教育論者の芹沢俊介さんは①人は自由になるために1つ1つ壊して、②自分でもう一度選び直していく。③つまり生まれたとき選べなかったものを引き受けてい

くことの過程に親子の衝突があり、その先に成熟と自由があるとわれています。ひきこもりで苦しんでいる若者がもう一度選び直すためには親の介入は無効です。なぜなら彼らは自分の親や環境と戦わないといけないからです。その関係を一端壊して初めて自我を確立し成熟していきます。『親ガチャ』はどれを引いてもころがたどる道に大差はないということです。それどころか選べない親のもとそれを引き受けることで人生の大きな賜を得るとのことができるのです。

親ができることは「最大の注意を払いながら見守る」ことです。皆さんのお子さんにもやがて親離れの時期がきます。絶対に頼ってくれるのは今しかありません。究極の願いである「生きていてくれてありがとう」「私の子どもでありがとう」と言って新しい年に子どもを送り出してください。子どもとの良好な関係を大切にすることで親離れはスムーズに移行していくことでしょう。

今年も一緒に子育てについて考えていきましょう。

(文:時川ちづる)

スクールカウンセラー来校予定日【8:15~12:15】【13:00~17:00】
1月31日(月), 2月21日(月) (今年度は、残り2回です。)



子育ての悩みや相談などがありましたら、各担任、教育相談担当(山本)、または養護教諭(小宮)まで連絡をください。

☆連絡先 佐志小学校(74-3445) *1回の相談時間は、約1時間

*相談料は不要です。